

2020年6月26日

シリーズ企画「コロナ後のイノベーション動向」

【11】フード宅配系、米国とインドが激戦区に

—料理、食料品宅配、シェアキッチンなど注目

主任研究員 上原正詩

(要旨)

- ▶ フード宅配関連分野のスタートアップは VC からの出資を集めている企業が米国とインドに多く、両国が激戦区となっている。
- ▶ 米国では米ドアダッシュが料理宅配ビジネスをリードするほか、食料品宅配のインスタカート、キッチン共有サービスを提供するクラウドキッチンズなど様々なフード関連ビジネスが生まれている。
- ▶ インドも同様にスウィギー、ゾマト・メディア、さらにライドシェアのオラ・キャブズなども料理宅配市場に参入し、激しいシェア争いをしている。

コロナ禍で外出禁止・自粛令が世界各国・各都市で出される中、フード宅配は市場が拡大しているビジネスの一つだ。「フード宅配」関連分野のスタートアップは VC からの出資を集めている企業が米国とインドに多く、両国が激戦区となっている。中国は大手 2 社がすでに上場しているか、大手の傘下に入っており、スタートアップ全体に比べて存在感が薄い。米国では米ドアダッシュが料理宅配ビジネスをリードするほか、食料品宅配のインスタカート、キッチン共有サービスを提供するクラウドキッチンズなど様々なフード関連ビジネスが生まれている。インドも同様にスウィギー、ゾマト・メディア、ライドシェアのオラ・キャブズなども料理宅配市場に参入し、激しいシェア争いをしている。また「宅配」ではないが、植物由来の原料で代替肉や卵などを開発する食品スタートアップも注目されている。

■中国大手 2 社はユニコーンから“卒業”

フード宅配系¹は 12 産業分類中、比較的下位に位置する。企業数は 44 社で不動産より上位の 9 位(【2】「浮上するヘルス系スタートアップ」図表 3 参照)。評価額合計は 797 億ドルで、やはり不動産より上の 10 位だった。デカコーンは 1 社あり、ユニコーン、デミコーン、ミニコーンはほぼ同じぐらいのシェアとなっている(【2】「浮上するヘルス系スタートアップ」図表 2 参照)。

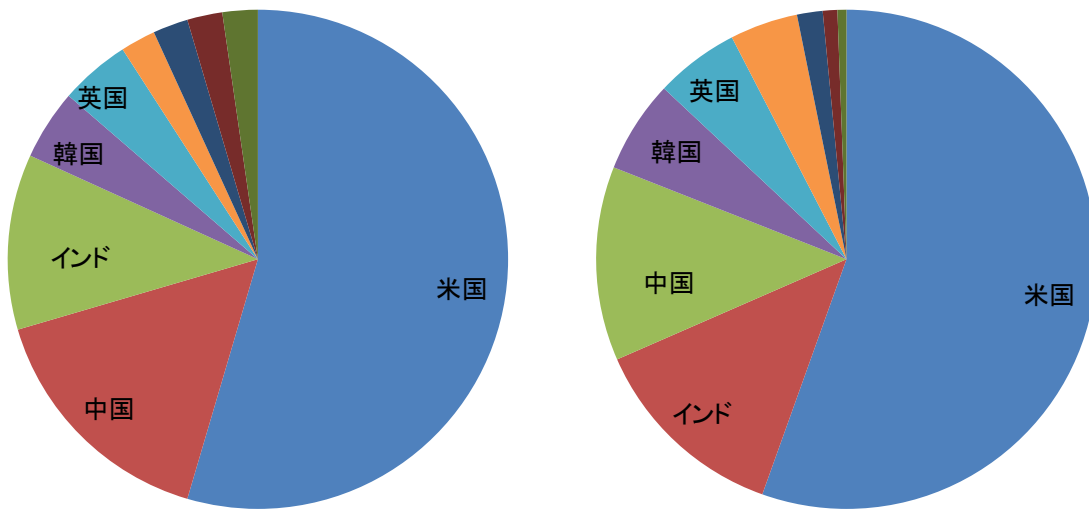
国分布では企業数は米国がほぼ半数を占め、中国、インドが 2 位、3 位(図表 1)。評価額合計でも米国が過半数を占めたが、インドが中国を上回って 2 位となった。スタートアップ全体と比べると企業数、評価額合計ともにインドのシェアが高く、インドでフード宅配系ビジネスが活発なことが分かる(図表 2)。米国は評価額での比率が高く、比較的大きなスタート

¹ ピッチブックの産業分類 (Verticals) が Restaurant Technology、FoodTech をフード宅配系と分類した。

アップが存在していることを示唆している。一方、中国のシェアは評価額で見るとスタートアップ全体でのシェアよりもかなり小さい(図表 2)。

ライドシェア分野とは対照的に、フード宅配分野で中国の存在感が薄いのは、すでにフード宅配大手が株式上場を果たしたか、あるいは大手の傘下にあるためだ。評価額が 486 億ドルあったデカコン、美团点评(メイチュアン・ディアンピン)(北京)は 18 年 9 月に香港取引所に上場し、ユニコンから“卒業”(6 月半ばの時価総額は 1080 億ドル)。評価額 95 億ドルとされた餓了么(ウーラマ)(上海)は阿里巴巴集团(アリババ集团)に 18 年 4 月に買収され、同じくアリババ系の口碑(コウベイ)(杭州)と統合して阿里巴巴本地生活服务(アリババ・ローカル・サービスズ)となった。VC の関心は中国から米印にシフトしつつある。

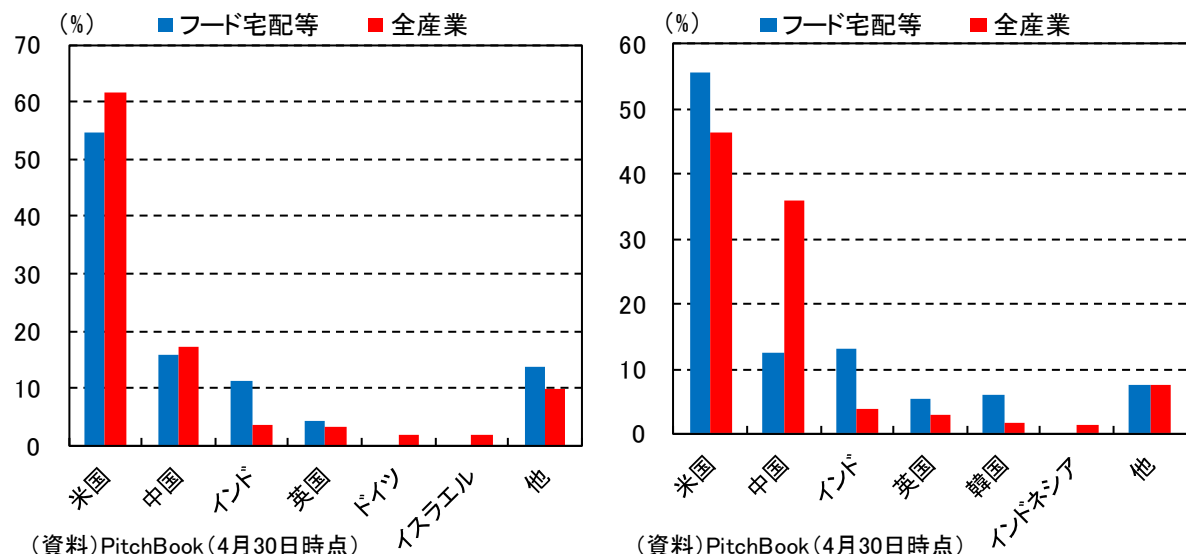
図表 1 フード宅配系スタートアップの国分布
(企業数) (評価額合計)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(資料)PitchBook(4月30日時点)

図表 2 フード宅配分野と全産業の国分布比較
(企業数) (評価額合計)

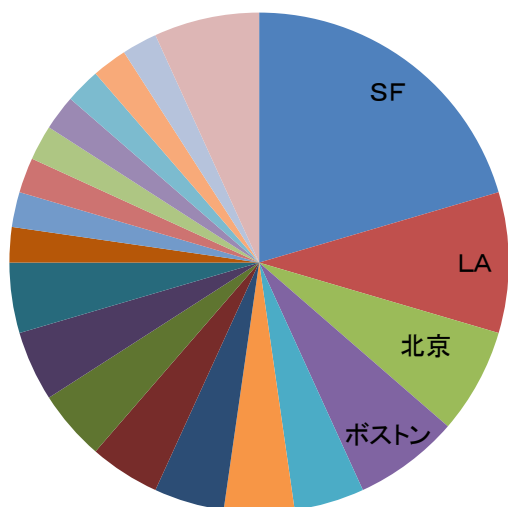


(資料)PitchBook(4月30日時点)

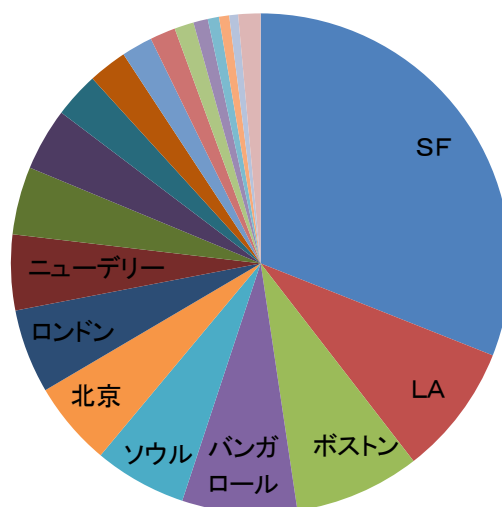
(資料)PitchBook(4月30日時点)

都市分布で見ると企業数ではサンフランシスコ、ロサンゼルス、北京、ボストンの順（図表 3）。評価額ではサンフランシスコが 3 分の 1 を占め、ロサンゼルス、ボストン、バンガロールが続いた。サンフランシスコには唯一のデカコーンのドアダッシュと、ユニコーンのインスタカートという評価額トップ 2 社が本社を置いている。ロサンゼルスには評価額 3 位のクラウドキッチンズ、ボストンには同 4 位のトースト、バンガロールは同 7 位のスウィギーと同 14 位のビッグバスケットがある。

図表 3 フード宅配系スタートアップの都市分布
 （企業数） （評価額合計）



(資料) PitchBook (4月30日時点)



(資料) PitchBook (4月30日時点)

図表 4 は横軸に評価額、縦軸に出資している VC の数 (投資 VC 数) をとってフード宅配系 44 社の分布を見た散布図である。図表 5 を参考にしながら、注目のフード宅配系スタートアップを紹介する。

① 料理宅配

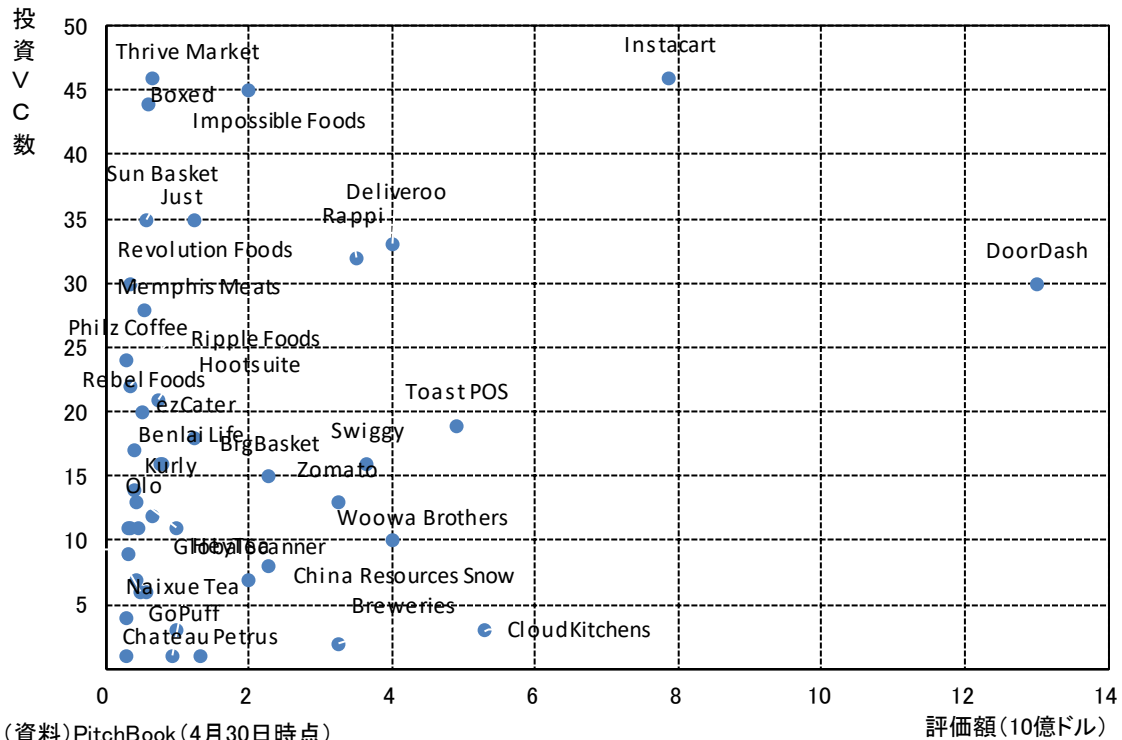
評価額 1 位から 4 位までは米国系企業で、それぞれフード宅配関連ではあるが、ビジネスモデルが異なっている。1 位の米ドアダッシュ (サンフランシスコ) は中国の美团点評や餓了么と同様で、レストランの料理を消費者に届けるビジネスモデル。消費者は同社のアプリから食べたい料理を選択すると、提携先のレストランに注文が入り、「ダッシャー」と呼ばれる契約宅配人が料理を取りに行き、自宅まで配達してくれる。レストランと消費者、そして宅配人の 3 者をマッチングするビジネスである。

同社は中国出身のトニー・シュー氏がスタフォード大ビジネススクールの同級生 3 人と 2013 年に設立。Y コンビナーター卒業生で、ほかにセコイア・キャピタル、ソフトバンクグループなど計 30 社が投資する。

米国の料理宅配ビジネスは競争が激しくなっている。米ウーバーテクノロジーも料理宅配サービス「ウーバーイーツ」(当初は「ウーバーフレッシュ」)をサンタモニカで 2014 年に開始し、現在では全国展開して業界 3 位に付けている。ウーバーは 5 月、業界 2 位で 2004 年設立の老舗クラブハウス (シカゴ、ニューヨーク証券取引所に 2014 年 4 月に上場) を株価

交換で買収する交渉を進めていると報道された²。両社が合併すれば合計シェアでドアダッシュを上回りトップに躍り出るはずだったが、6月に入り、欧州ジャスト・イート・テイクアウェイがグラブハブを買収することになった³。

図表 4 フード宅配系スタートアップの評価額と投資 VC 数の散布図



そこで注目されるのが業界 4 位の米ポストメイツ(サンフランシスコ)⁴の行方だ。同社は 2019 年 2 月に上場計画が明らかになったが、その後、プライベートエクイティ(PE)の GPI キャピタルなどから資金調達をして上場を延期した。19 年 12 月にはメキシコからの撤退を発表し、米国市場に集中するとしている⁵。ドアダッシュは 20 年 2 月に新規株式公開(IPO)の登録届出書を米証券取引委員会(SEC)に提出しており、上場企業になる見通し。1位から3位が上場企業となり資金調達の面で優位に立つため、ポストメイツの生き残り戦略が注目される。

インドも料理宅配ビジネスの激戦区だ。評価額 7 位の印スウィギー(バンガロール)が業界をリードする。インド経営大学カルカッタ校卒のスリハルシャ・マジェティらが 2014 年に設立。マジェティらは 2013 年に電子商取引のサイトを立ち上げたが、うまく行かずに 2014 年

² TechCrunch 「Uber がフードデリバリー大手の Grubhub と買収交渉、成立すれば DoorDash を抜き米国シェア 1 位に」 2020 年 5 月 12 日

³ TechCrunch 「欧州の Just Eat Takeaway が米フードデリバリーの Grubhub を 7800 億円で買収、Uber は独禁法懸念で交渉打ち切り」 2020 年 6 月 11 日

⁴ ポストメイツは評価額 24 億ドル規模だが、PE が支援する企業のため、VC 支援のユニコーンリストから外れている。

⁵ Reuters “Postmates food delivery service leaving Mexico to focus on U.S. market” December 4, 2019

に料理宅配事業に業態転換した。香港の DST グローバル、南アフリカのネット企業ナスパーズ、騰訊控股(テンセント)、美团点评など 16 社から投資を受けている。2019 年 2 月には近くの小売店から日用品などを配送するサービス「スウィギー・ストア」、友人などに荷物を届けるサービス「スウィギー・ゴー」も開始し、総合的な宅配サービス会社に移行しつつある。

評価額 10 位の印 **ゾマト・メディア**(ニューデリー)がスウィギーを追うポジションにいる。同社はレストランレビューサイトとして 2008 年に設立され、2015 年に料理宅配事業に参入した。螞蟻金融服務集團(アント・フィナンシャル)、独料理宅配大手 **デリバリー・ヒーロー**(フランクフルト証券取引所上場)、セコイア・キャピタル・インディアなど 13 社が支援する。レビューサイトとしては世界 24 カ国 1 万以上の都市の情報を掲載する。

ウーバーもインドでデリバリー事業「ウーバーイーツ」を展開していたが、20 年 3 月、同事業をゾマトに売却した。一方、ライドシェア大手の **オラ・キャブズ**はインドの料理宅配 3 位のフードパンダを独 **デリバリー・ヒーロー**から買収しており、インドでは料理宅配ビジネスを巡る競争が激化している。

料理宅配ビジネスは世界各地にあり、英国では評価額 5 位の英 **デリバラー**(ロンドン)(2013 年設立)、韓国では同 6 位の **ウーワ・ブラザーズ**(ソウル)(2010 年)、コロンビアでは同 8 位の **ラッピ**(ボゴタ)(2015 年)がユニコーンとして存在感を放つ。デリバラーには米アマゾン・ドット・コムが資本参加し、いよいよ GAFAM の一角が同市場に本格参入か、と騒がれた。欧州には独 **デリバリー・ヒーロー**があり、独 VC のロケットインターネットからフードパンダを 2016 年に買収し、東南アジア各国でも事業を展開している。同社はゾマトやラッピにも出資し、2019 年 12 月には韓国 **ウーワ・ブラザーズ**を買収する、と報道されている⁶。

都市封鎖、外出禁止・自粛指令が世界各国で出る中、フード宅配市場は巣ごもり消費で堅調に推移している。しかし競争が激しく利益率もそれほど高くないため、コロナ禍下では優劣も明確に出てきている。スウィギーは 4 月にテンセント、サムスン電子などから新たに計 4300 万ドルを調達している。新たな軍資金を得た企業が業界再編の主導権を握る可能性が高い。

② 食料品宅配

評価額 2 位の米 **インスタカート**(サンフランシスコ)は食料品を消費者に宅配するビジネス。レストランではなく、スーパーマーケットと消費者、そして「ショッパー」と呼ばれる契約宅配人を仲介するビジネスモデルだ。消費者から見れば、買い物を「ショッパー」に代行してもらう形で、スーパーから見ればインスタカートを通じてネット通販をする形となる。

インド出身でカナダのウォータールー大学を卒業した **アプルバ・メータ氏**が 2012 年に創業したスタートアップで、ドアダッシュの 1 年前に Y コンビネーターの指導を受けている。アンドリーセン・ホロウィッツ、クライナー・パーキンス(KPCB)、セコイアなど 46 社が出資している。インスタカートはコロナ禍の影響で宅配ビジネスの需要が急増し、3 月に 30 万人、4 月に 25 万人を新規雇用すると発表しており、雇用吸収源になっている。

コロナ禍による都市封鎖で自宅に籠る消費者が宅配を依頼するケースが増えており、料理宅配専門だったドアダッシュも 20 年 4 月 1 日、日用品などの宅配を始めた。セブンイレブンなど 1800 のコンビニエンスストアから、スナックやキッチンペーパーなどを配送する。食料

⁶ Reuters “Delivery Hero leaps on \$4 billion food app deal to buy South Korea’s Woowa” December 13, 2019

品と料理の宅配ビジネスは将来的には融合していく可能性もある。

インドでも食料品宅配ビジネスの競争が激化している。最大手は評価額 12 位の印**ビッグバスケット**(バンガロール)。自ら配送センターを持つネットスーパーの部類で、国内 20 以上の都市でサービスを提供している。2011 年設立で、アリババ、ペイティーエムモールなど 15 の投資家を抱えている。

「インド版のインスタカート」は印**グロファーズ**(ニューデリー)だ。2013 年創業のデミコーンだが、ソフトバンクグループ、セコイア・インディア、タイガー、DST グローバルなど有力 VC が出資している。ゾマトが同社を買収するとの報道も出ており、インドの宅配ビジネスも料理から食料品の宅配まで業界再編・統合が予想される⁷。アマゾンでは 2007 年から米国で生鮮食料品の宅配サービス「アマゾン・フレッシュ」を開始し、インドでも 2019 年 8 月からバンガロールでサービスを提供している。米ウォルマートに買収された、アマゾンの競合の印**フリップカート**も食料品宅配の参入を準備しているとされる⁸。

③ シェアキッチン

評価額 3 位は米**クラウドキッチンズ**(シティ・ストレージ・システムズ)(ロサンゼルス)。レストランのオーナーに調理スペースを提供するビジネスで、オーナーは店舗を出さずに、料理宅配サービスを通じて消費者に料理を提供する。テーブルや椅子などがある飲食スペースも不要、接客スタッフも不要で、費用や手間をかけずに「インターネット・レストラン」をオープンするのを支援するビジネスだ。複数のレストランが 1 つのキッチンを共有することも可能で、「シェアキッチン」の提供を同社もうたっている。料理宅配ビジネスの成長とともに生まれてきた不動産ビジネスといえる。ソフトウェアのクラウドサービスに倣って、クラウドキッチン・サービスとも呼ばれる。

クラウドキッチンズはウーバーの創業者**トラビス・カラニック氏**が 2015 年に創業したスタートアップで、様々な不祥事でウーバーを辞めた**カラニック氏**が再び CEO として経営の陣頭指揮を取っている。サウジアラビアの政府系ファンドなどが出資している。

インドでは評価額 5.3 億ドルのデミコーン、印**レベル・フーズ**(ムンバイ)がクラウドキッチン方式の「インターネット・レストラン」を運営している。ビリヤニ、中華、ピザなどの料理をそれぞれ個別のブランドでネットを通じて提供している。米クラウドキッチンズより前の 2011 年に「**ファースス**」として設立された。米クラウドキッチンズ及び**トラビス・カラニック氏**も 2019 年に**レベル・フーズ**に出資した。ソフトバンクグループ、テンセント、ゴジエックなど計 20 の投資家を抱える。

④ レストラン支援ソフト

評価額 4 位の**トースト**(ボストン)はレストラン専用の POS(販売時点情報管理)システムを販売するスタートアップ。POS 端末だけでなく、メニュー変更、材料の在庫管理、売上高や顧客情報の解析など、レストラン関連ソフトをクラウドベースで提供する。2011 年設立で、**グーグル**、**タイガー・グローバル・マネジメント**、**ティー・ロー・プライス**など 19 社が出資する。

コロナ禍でレストランの売り上げが激減する中、トーストはレストラン経営を支援するためオ

⁷ The Economic Times “Zomato places an order for Grofers at \$750 million valuation” April 15, 2020

⁸ You Story “Flipkart set to start hyperlocal delivery services” June 17, 2020

オンラインで注文を受け付け、クレジットカードによる支払いにも対応した「トーストナウ」の提供と、半径 5 マイル以内なら一回の注文で一定の手数料 (8ドル) しか取らない定額宅配サービス「トースト・デリバリー・サービシズ」を 4 月から開始した。しかし同社自体もコロナ禍で打撃を受けており、4 月に従業員の半分をレイオフすることを発表している。

■代替食品ビジネスに商機

図表 5 にフード宅配系を支援する VC 上位 8 社 (5 社以上に出資) のリストを示した。図表 6 はこのトップ 8 VC と、出資するスタートアップの出資関係を描いたグラフである。6 位のコースラ・ベンチャーズは米サン・マイクロシステムズ (オラクルに買収された) の共同創業者の一人であるビノッド・コースラ氏が設立した VC。ドアダッシュ、インスタカートに加え、食糧問題の解決につながるようなビジネスにも投資している。フード宅配系には人工肉に代表される代替フード関連のスタートアップも含めており、この分野にコースラは積極的に投資していることが分かる。

評価額 14 位の米インポッシブル・フーズ (シリコンバレー) は植物性の原料から、牛肉の味のする人工肉を開発・製造するスタートアップ。スタンフォード大学のパトリック・ブラウン名誉教授が、家畜を育てて肉を生産する畜産業が地球環境問題の一因であると考え、より効率のいい「食肉」生産のイノベーションが必要との思いから 2011 年に起業した。コースラ、テマセクのほか、グーグル、マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏、香港の富豪の李嘉誠氏など 54 の投資家を抱える。

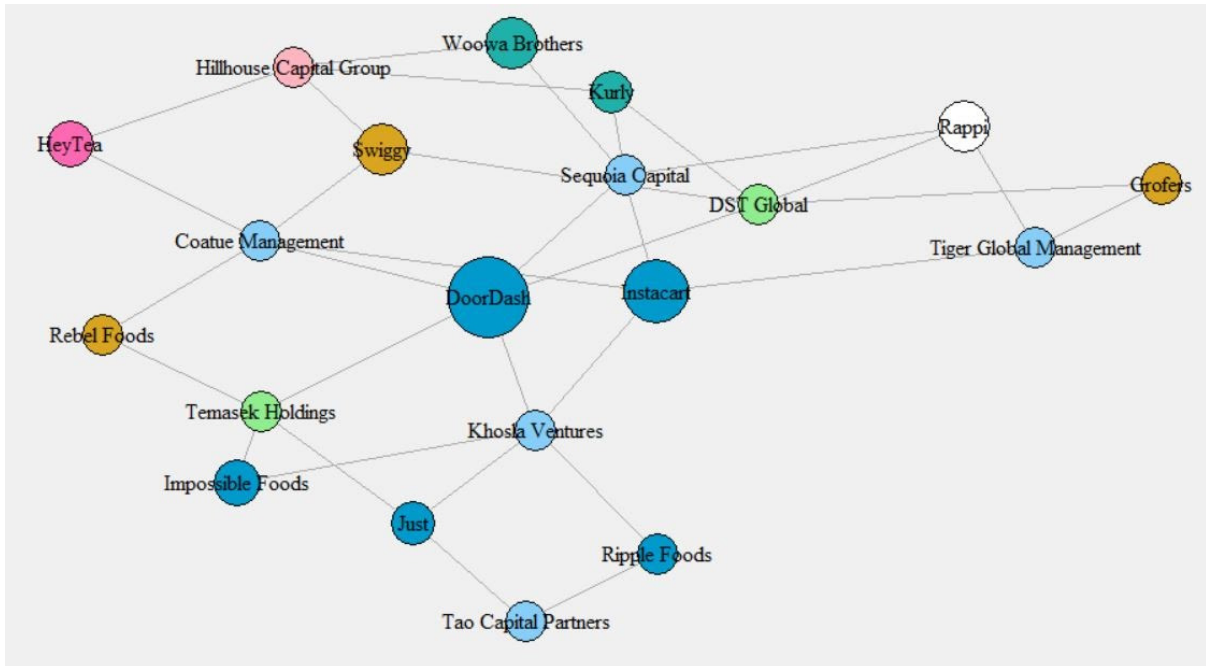
米ジャスト (旧ハンプトン・クリーク) (サンフランシスコ) は 2011 年設立のユニコーンで、植物由来の「卵」やそれを原料にしたマヨネーズの製造・販売を手掛ける。和牛の培養肉の開発にも取り組んでいる。コースラ、タオ・キャピタルのほかゲイツ氏の VC、三井物産など 35 の投資家から支援を受けている。米リップル・フーズ (サンフランシスコ) はエンドウ豆から代替乳を製造・販売するスタートアップ。2014 年創業のミニコーンだが、コースラ、タオ・キャピタルのほかグーグル、ゴールドマン・サックスなど 22 社が出資している。

コートウー・マネジメント、高瓴資本 (ヒルハウス・キャピタル・グループ) が出資する中国・深圳美西西餐飲管理 (喜茶、ヘイティアー) (深圳) はチーズ入り紅茶ドリンクのチェーン店で、テンセント、セコイア・キャピタル・チャイナなども出資している。

図表 5 フード宅配系を支援する VC 上位 13 社 (カッコ内は出資スタートアップ数)

- 1 香港・DST グローバル (7)
- 2 米セコイア・キャピタル (6)
- 3 シンガポール・テマセク・ホールディングス (6)
- 4 米コートウー・マネジメント (5)
- 5 中国・高瓴資本 (ヒルハウス・キャピタル・グループ) (5)
- 6 米コースラ・ベンチャーズ (5)
- 7 米タオ・キャピタル・パートナーズ (5)
- 8 米タイガー・グローバル・マネジメント (5)

図表 6 フード宅配系の有力 VC とスタートアップの出資関係



(資料) Pitchbook(4月30日)、JCER

(注) 青い丸が米国系、赤い丸が中国系、黄色い丸がインド系、緑の丸がアジア系スタートアップで、いずれも濃い色がスタートアップ、薄い色が VC。白い丸はそのほかの国のスタートアップ及び VC。スタートアップの丸の大きさは評価額を表す。フード宅配系スタートアップ 44 社に出資する VC は 600 強。そのうち 5 社以上のスタートアップに出資する VC 8 社と、その 8 社のうち 2 社以上が出資するスタートアップ 12 社の出資関係をネットワーク・グラフで表現した。

本稿の無断転載を禁じます。

詳細は総務本部までご照会ください。

公益社団法人 日本経済研究センター
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル11F
 TEL:03-6256-7710 / FAX:03-6256-7924